

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

会津若松市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の結果の概要

(1) 調査に関する概要

実施日	令和7年4月17日（木） ※中学校理科は4月14日（月）～4月17日（木）のうちいずれか1日	
実施人数 （実施校数）	小学校6年生 844名（19校）	中学校3年生 801名（11校）

※ 義務教育学校前期課程は小学校、義務教育学校後期課程は中学校に読み替えてください。

(2) 教科に関する調査結果の概要（平均正答率）（中学校理科はIRTスコア※）

【小学6年生】

	会津若松市	福島県	全国
国語	64	65	66.8
算数	54	55	58.0
理科	54	56	57.1

【中学3年生】

	会津若松市	福島県	全国
国語	51	53	54.3
数学	42	45	48.3
理科	474	496	503

※ IRTスコア・・・問題の難易度と、児童生徒の解答状況から、より正確に推定した学力（能力）の値。

(3) 全国の平均正答率を基準とした市立学校の教科別結果

区分	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
(A) 全国平均を上回る （全国平均＋2以上）	5校	5校	4校	2校	1校	－
(B) 全国平均をやや上回る （全国平均＋1以上＋2未満）	1校	0校	0校	0校	1校	－
(C) 全国平均とほぼ同じ （全国平均±1未満）	4校	1校	3校	1校	1校	－
(D) 全国平均をやや下回る （全国平均－1以上－2未満）	1校	1校	1校	1校	2校	－
(E) 全国平均を下回る （全国平均－2以上）	8校	12校	11校	7校	6校	－

※ 中学校理科は、平均正答率ではなくIRTスコアによる公表のため、除きます。

2 各教科の学力調査結果に見られる主な特徴

対象	教科	正答率が全国平均を上回った または同程度の領域及び問題形式等	課題が見られた領域及び問題形式等
小学6年生	国語	記述式の問題	「話すこと・書くこと」の領域の問題
	算数	分数の捉え方の問題 異分母の分数の加法の問題	図形の領域の問題 記述式の問題
	理科	記述式の問題	実験の方法を発想する問題
中学3年生	国語	資料を用いて自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題	記述式の問題
	数学	相対度数※を求める問題	図形の領域の問題 記述式の問題
	理科	疑問や問題を解決するための課題を設定する問題	「地球」を柱とする領域の問題 (地層、気圧など)

※相対度数・・・あるデータの個数の全体に対する割合

3 質問調査項目に見られる主な特徴

調査対象	肯定的な回答の割合が 全国平均を上回った主な質問	質問項目から明らかになった課題
児童生徒	困りごとや不安があるときに先生などに相談できる。	パソコンやタブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している割合が全国平均より低い。
	授業などで先生がわかるまで教えてくれる。	平日の家庭学習時間について、中学生は目標値である「2時間以上」と回答した割合が全国平均より低い。
	自分で学び方を考え、工夫することができる。	
	授業の内容がよくわかる。	
学校	授業で課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの活動を取り入れている。	「児童生徒が自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる」など表現力に関する質問について、中学校では全国平均より低い。
	児童生徒は課題の解決に向け、自ら考え取り組むことができる。	

4 学力向上の対策

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、各学校における指導改善に役立てるため、全国学力・学習状況調査研究会を実施します。
 - ① 研究会において学力向上に向けた「指導のポイント」の作成
 - ② ①の「指導のポイント」を基にした各学校における「自校プラン」の作成と実践

(2) 児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成や実態把握のために、各種テストを実施します。

- ① 「全国学力調査問題」（文部科学省作成）の過去問及び「ふくしま活用力育成シート」（福島県教育委員会作成）を活用したテスト
- ② 「チャレンジテスト」（市学校教育指導員会作成）

(3) ICTの効果的な活用を推進し、学習への関心や意欲を高めるとともに、学習内容の理解を深め学力の定着を図ります。

- ① ICT・タブレットの活用率アップ
- ② 教育ICT推進委員会におけるタブレット活用の実践研究

(4) 学校・家庭・地域が一体となった学力向上推進体制の構築を図ります。

- ① タブレットやデジタルドリルの活用を含めた家庭学習の充実
- ② メディアコントロール週間の徹底
- ③ あいづっこ数学サポートティーチャーのより積極的な活用
- ④ 地域人材による学習ボランティアの活用

(5) 児童生徒の学習意欲の向上に向けた取組を推進し、チャレンジ精神を養います。

- ① 漢字、英語、数学の検定受検の推進
- ② あいづっこ人材育成プロジェクト事業の推進

(6) より一層の授業力向上と望ましい人間関係の構築を図ります。

- ① 教育講演会、授業力向上研修会
- ② 指導主事による学校訪問及び指導助言
- ③ 学びの集団づくり研修（hyper-QU※等の活用）

※hyper-QU・・・児童生徒個人、学級集団の状態、個人と集団の関係性を把握するためのアンケート